

調査の概要

□令和5年4月18日(火)実施

○調査内容

- ・小学校第6学年、中学校第3学年の全児童生徒を対象
- ・教科に関する調査は、小学校は国語、算数、中学校は国語、数学、英語を出題
- ・主として「知識」に関する問題と、「活用」(知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力など)に関する問題が統一されて出題。また、生活習慣・学習環境等に関する質問紙調査を実施

○参加状況

- ・参加学校数 12校 (小学校6校・中学校4校・義務教育学校2校)
- ・参加児童生徒数 289名 (児童133名・生徒156名)

令和5年度 全国学力・学習状況調査 教科に関する調査の結果 (平均正答率)

		国語		算数・数学		英語		教科平均	
小学校	根室市	58.0		46.0				52.0	
	(北海道との差)	△ 8.0	拡	△ 15.0	拡			△ 11.5	拡
	(全国との差)	△ 9.2	拡	△ 16.5	拡			△ 12.9	拡
	北海道	66.0		61.0				63.5	
	全国	67.2		62.5				64.9	
中学校	根室市	62.0		38.0		27.0		42.3	
	(北海道との差)	△ 7.0	縮	△ 11.0	縮	△ 17.0		△ 11.7	拡
	(全国との差)	△ 7.8	縮	△ 13.0	縮	△ 18.6		△ 13.1	拡
	北海道	69.0		49.0		44.0		54.0	
	全国	69.8		51.0		45.6		55.5	

<各項目の右側の欄は、前年度の差との比較(拡:拡大、縮:縮小)>

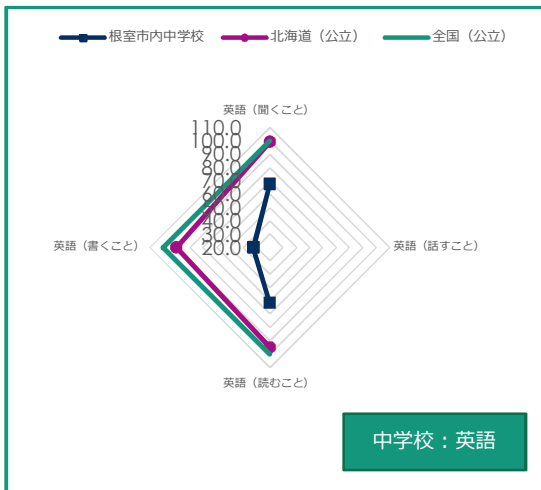
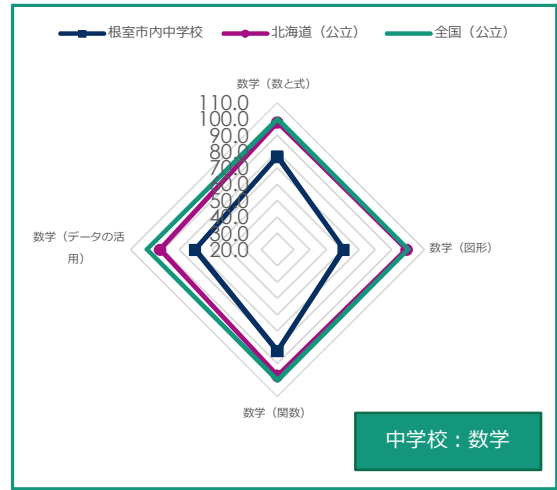
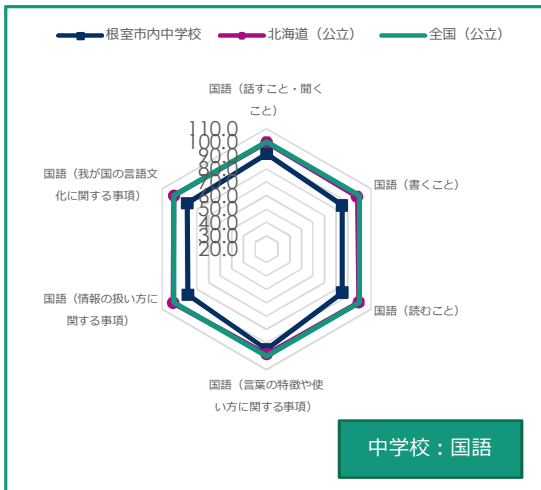
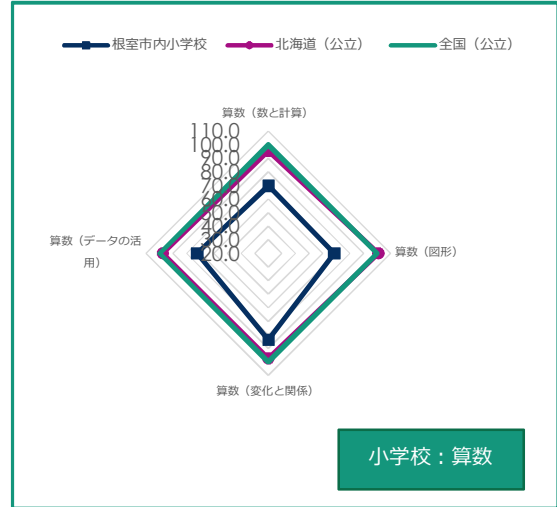
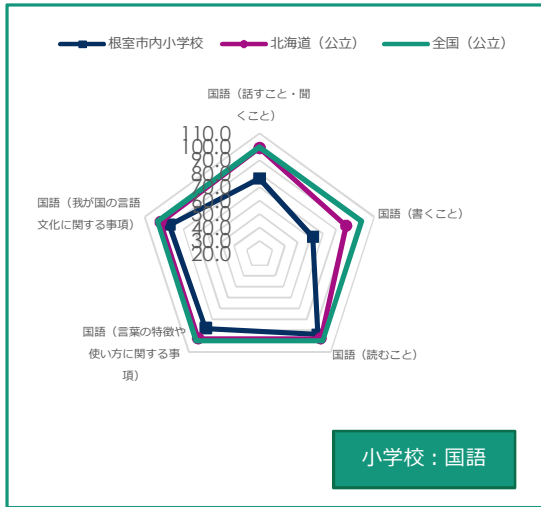
参考: 令和4年度 全国学力・学習状況調査 教科に関する調査の結果 (平均正答率)

		国語		算数・数学		理科		教科平均	
小学校	根室市	59.0		54.0		57.0		56.7	
	(北海道との差)	△ 5.0	拡	△ 7.0	拡	△ 6.0		△ 6.0	拡
	(全国との差)	△ 6.6	拡	△ 9.2	拡	△ 6.3		△ 7.4	拡
	北海道	64.0		61.0		63.0		62.7	
	全国	65.6		63.2		63.3		64.0	
中学校	根室市	60.0		35.0		42.0		45.7	
	(北海道との差)	△ 9.0	拡	△ 14.0	拡	△ 7.0		△ 10.0	拡
	(全国との差)	△ 9.0	拡	△ 16.4	拡	△ 7.3		△ 10.9	拡
	北海道	69.0		49.0		49.0		55.7	
	全国	69.0		51.4		49.3		56.6	

<各項目の右側の欄は、前年度の差との比較(拡:拡大、縮:縮小)>

## 領域別レーダーチャート

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び根室市の状況をレーダーチャートで示したもの



## 学力状況調査の結果から

### (小学校)

- 全国及び全道との差について、国語・算数ともに前回（令和4年度）よりも、差は広がっている。
- 平均正答率について、国語は、全道との差は $\Delta 8.0$ ポイント、全国との差は $\Delta 9.2$ ポイントとなっている。  
算数は、全道との差は $\Delta 15.0$ ポイント、全国との差は $\Delta 16.5$ ポイントとなっている。
- 教科の領域ごとに見ると、  
国語においては、「書くこと」「話すこと・聞くこと」が、全国・全道と比較して大きく落ち込んでいる。  
算数においては、「データの活用」や「数と計算」などに特に苦手が見られる。

### (中学校)

- 全国及び全道との差について、国語・数学ともに前回（令和4年度）よりも、差は縮まっている。
- 平均正答率について、国語は、全道との差は $\Delta 7.0$ ポイント、全国との差は $\Delta 7.8$ ポイントとなっている。  
数学は、全道との差は $\Delta 11.0$ ポイント、全国との差は $\Delta 13.0$ ポイントとなっている。  
英語は、全道との差は $\Delta 17.0$ ポイント、全国との差は $\Delta 18.6$ ポイントとなっている。
- 教科の領域ごとに見ると、  
国語においては、特に「書くこと」と「読むこと」が落ち込んでいる。  
数学においては、全体的に課題が見られており、特に「図形」で落ち込んでいる。  
英語においては、特に「書くこと」を柱とする領域で大きな落ち込みが見られる。

## 今後の取り組みに向けて

今年度の全国学力・学習状況調査は国語、算数・数学、中学校英語について実施しました。

学力調査で昨年度と比較すると、小学校では2教科共に全国・全道との差が広がり、中学校では、国語、数学で全国・全道との差が縮まる結果となりました。要因としては、中学校で子どもたちが自分の考えをもち、友達と交流する時間を位置づけられてきたことがあげられます。しかし、記述式問題における正答率が低く、小学校・中学校ともに、算数・数学や英語における思考を伴い、考えを記述することが課題です。子どもたち自身が課題に対する見通しをもち、各教科特有の見方・考え方を働かせる力が必要です。子どもたちが課題を自分事として捉え、「何ができるか」を主体的に考え、仲間とともに解決するような授業改善が必要です。

質問紙調査において、「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問で「当てはまる、どちらかと言えば当てはまる」と回答した児童生徒の割合が増加するとともに、中学校の「1・2年生で受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら自分の考えをまとめていましたか」の質問で「当てはまる」と回答した生徒の割合が全国平均を上回り、教え込まれるのではなく、自ら考えるという授業改善は進んでいると考えられます。また、児童生徒一人一人に配備したタブレットなどのICT機器を授業で積極的に活用する取組により、「友達と意見を交換する場でPC・タブレットなどのICT機器を使っていますか」の質問で、週3回以上使用していると回答した児童生徒の割合が、全国平均を上回りました。根室市学力向上プロジェクトにおいて、ICT機器の使用目的を明確にして、効果的に活用するための「根室市新たな授業づくりへのチャレンジハンドブック（ICT機器の効果的な活用編）」を作成して、各学校へ成果を還元しました。今後、子どもたちの「個別最適な学び」や「学びの個性化」に向け、ICT機器を効果的に活用した授業改善に取り組んでまいります。

将来の根室を担う子どもたちが、予測困難な社会を生きぬく力を育てていくために、学校・家庭・地域及び行政が、それぞれの役割を明確にし、連携を取り合いながら取組を進め、さらなる学力向上に向け、児童生徒の学習状況の改善に努めてまいります。